

社会的介入としての・遊びを活性化する

移動式遊び プレーバス

2019年

6月1日(土)

12:30受付 13:00開始-17:00終了

会場：日本学術会議講堂

東京都港区六本木7丁目2-3-4

東京メトロ千代田線 乃木坂駅 5番出口

ご案内

日本では都市部・農村部問わず、平日の外で遊ぶ日が0日の子が半数以上にのぼる調査結果が出てきました。このような状況において子どもの外遊びはどのように支援するとよいのでしょうか。移動式遊び「プレーバス」の本場、ドイツの方々と共に探っていきます。



ドイツでは...

- ・プレーバスは50年の歴史がある!
- ・中古の消防車もプレーバスに!



日本では...

- ・少しずつ広がりが。
- ・被災地の仮設住宅で



司会 三輪律江(横浜市立大学准教授、日本学術会議連携会員)

書記 齋尾直子(東京工業大学准教授、日本学術会議連携会員)



発表



「ドイツにおける移動式遊びと遊びの活性化 1971年からの展開」

カーラ・ツァハリヤス Karla Leonhardt-Zacharias (教育的活動Pädagogische Aktion SPIELkultur e.V.)



「なぜ移動式遊び (Mobile Play)、プレーワーカー(Spielpaedagoge)が今の子どもにも必要か?」

ゲルハルト・クネヒト Gerhard Knecht (ドイツ移動式遊び連合BAG Spielmobile e.V.代表、Spiel Landschaft e.V. 代表)



「ドイツにおけるプレーワーカーの教育」

ズザンネ・エントレスSusanne Endres (レムシャイト芸術学院)



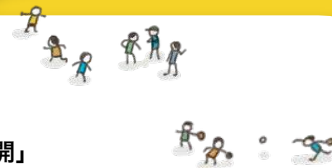
「都市環境におけるプレイバスとの協働」

ウルリヒ・ラウ Ulrich Rauh (元ミュンヘン市公園局子どもの遊び空間計画担当)



「現場からみる日本における移動式遊びの展開の課題」

星野 諭 (NPO法人 コドモワカモノまちing 代表)



逐次通訳

ドイツ語→日本語



総合討議

コーディネーター



木下 勇(千葉大学教授 日本学術会議連携会員)

上記発表者に加え、コメンテーター



仙田 満 (日本学術会議特任連携会員、東京工業大学名誉教授、こども環境学会理事長、建築家)

内田 伸子 (日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学名誉教授、十文字学園女子大学特任教授・理事)



参加費：無料 (申込で先着300名)

こちらにアクセスの上、申込ください。

<https://forms.gle/uD4F2VSWGvA7pKqp6>

申込み

主催：日本学術会議心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会
環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会

共催：(特非)日本冒険遊び場づくり協会、(公社)こども環境学会

後援(予定)：(公財)日本ユニセフ協会、(公社)日本小児医療保険協会

(国研)国立成育医療研究センター、(一社)プレーワーカーズ

ドイツからの登壇者は文部科学省委託日本冒険遊び場づくり協会受託日独青少年教育交流事業で来日。